

HCAP 東京大学運営委員会 ハーバードカンファレンス 2014 報告書

2014年2月26日

HCAP 東京大学運営委員会 8期



■ 目次

目次	1
本報告書について	2
ハーバードカンファレンスとは	2
ハーバードカンファレンス 2014 概要	2
学術企画について	3
文化企画について	4
交流企画について	5
ハーバードカンファレンス 2014 総括	6

■ 本報告書について

本報告書では米国ハーバード大学とアジア 8 大学に拠点を持つ HCAP (Harvard College in Asia Program) が主催する短期交流プログラムであるハーバードカンファレンスとアジア諸国でのカンファレンスのうち、ハーバード大学の HCAP 本部が企画・運営した前者のプログラム「ハーバードカンファレンス」について報告する。

■ ハーバードカンファレンスとは

ハーバードカンファレンスとはハーバード大学生とアジアの大学生が参加し約 1 週間にわたって米国ハーバード大学にて開催される学生主体のプログラムである。9 日間のプログラムは学術・文化・交流の 3 種類で構成され、レクチャーやディスカッションからダンスパーティーなどプログラムは多岐にわたる。また、毎年カンファレンスには共通のテーマが与えられ、全カンファレンスは共通のテーマに沿った形で開催される。



■ ハーバードカンファレンス 2014 概要

主催 : HCAP (Harvard College in Asia Program)

日程 : 2014 年 1/18~1/26 (9 日間)

テーマ : Building Sustainable Cities

参加者(全 151 名) : ハーバード大学生 87 名、アジア 8 都市の大学(東京・ソウル・香港・バンコク・ムンバイ・ドバイ・シンガポール・イスタンブール)から各 8 名

■ Harvard Conference 2014 学術企画

ー学術企画総括

ハーバードカンファレンスの学術企画はテーマ「Building Sustainable Cities」を軸に、レクチャーやディスカッションなどを通じて知見を深め、意見を交換した。全体を通じて、活発な授業雰囲気やハーバード生や他のアジアの大学生の主張の強さや体感した。その中でもとりわけ印象的であった、レクチャーとケーススタディーについて以下に記述する。



ーレクチャー「持続可能な都市づくり」

様々な教授がスライドを使いながら、「持続可能な都市づくり」に関してのレクチャーをした。日本の大学では質疑応答の時間に沈黙と共に気まずい雰囲気が流れることも多々あるが、ハーバードでの授業は様々な学生が我先にと手を挙げ、全体としてとても活発な雰囲気であった。あるレクチャーでは、レクチャーの後半に Water, electricity, household の三つ観点で教室を分けて、再び生徒数人でその観点からどのように持続可能な都市を建設できるか話し合い、発表・やり取りを行った。



ーケーススタディー

「持続可能な都市づくり」に関するケーススタディーでは、テーマに沿った TED 動画を鑑賞した後、各国での「都市の持続可能性へのアプローチ」を共有しあい、日本では高齢者向けの都市づくりが盛んなことや、韓国ではリサイクル運動が盛り上がっているなどの意見が共有された。またテーマとは少し離れ、「政治的な自由はどこまで

大切か」や「自由主義と共産主義のどちらが持続可能な社会を作るか」などの議題でも議論し、各国の事情やそれぞれの育った環境を知るきっかけとなった。

■ Harvard Conference 2014 文化企画

－文化企画総括

アジア 8 国とハーバード大学から集められた 150 人は様々な文化背景の下で育った集団であり、様々な企画を通じ、互いの文化背景を知ることが出来た。その中の 3 企画について、詳細を以下に記述する。

－ボストン・ハーバード大学ツアー

ハーバード生にボストンの名所やハーバード大学各所を今年のカンファレンステーマ"building sustainable cities"の観点を交えて案内してもらった。ボストンツアーでは、ダウンタウン中心の広々とした公園ボストンコモンを出発し、フリーダムトレイルに沿ってクインシーマーケットまで歩いた後、ホロコーストメモリアルを抜け、アメリカ建国の地、学問の中心地としての存在感を知ることとなった。



－タレントショー

参加者個人やアジア各国の大学が出し物をする企画。東京組は全員でソーラン節を披露し、個人でけん玉や南京玉すだれを披露する者もいた。他にもイスタンブールのベリーダンス、ソウルの K-POP ダンス、ムンバイのヨガなど、各国が自国の良さを活かした見所の多いタレントショーとなった。



－アイアンシェフ

制限時間内で、与えられた 20 ドルと隠し味のリンゴを用い、材料集めから始め各国対抗で料理を競い合う企画。東京組のリンゴを各所にちりばめたてんぷらと焼き鳥、白鳥のフルーツカービングが素晴らしかったバンコク、唯一デザートを出したドバイなど、各国のアジア料理を一度に楽しめた。



■ Harvard Conference 2014 交流企画

－交流企画総括

ハーバードカンファレンスの内で最も盛り上がる企画である。様々な交流企画を通じて、現地の大学の雰囲気を感じ、日本との差や非日常感を存分に味わうこととなった。その中の 4 企画について以下に記述する。

－スピードフ렌ディング

長机に 150 人が向い合って座り、1 人 1 分で次々に喋る相手を変え、たくさんのトークテーマが与えられ、大音量の音楽が鳴り響く慣れない雰囲気の中、次々と現れる初対面の相手との会話に奮闘した。



－「持続可能な」お菓子の家づくり

参加者が国を超えて 8 グループに分かれ、ジンジャーブレッドを用いたお菓子の家を共同で作成し、完成したお菓子の家の「持続可能性」を競い合い、共同作業を通じてお互いが打ち解け合う良い機会となった。

－プロム

正装(男子はスーツ、女子はドレス)で夜に集まり、男子が全参加女子から一人を誘い共に踊る企画である。日本では馴染みがなく、まさに映画で見ていたような光景であったが、最終的には全参加者がパートナーを見つけ、写真撮影やダンスパーティーを楽しんだ。



－Mr. HCAP Competition

参加 9 か国から選出された 30 名ほどの男子が候補者として、Mr. HCAP の称号を競ってお互いの魅力を披露しあった。候補者同士はキャットウォークや 30 秒間での特技披露、「自分が Mr. HCAP にふさわしい理由」のプレゼンテーションを行い、審査員の女子人から鋭い質問が飛ぶ中、最終的には東京組の一人が Mr. HCAP の称号を勝ち取った。



■ Harvard Conference 2014 総括

今年度のハーバードカンファレンスには HCAP 東京大学運営委員会から 8 名が参加し、ハーバード大学での非日常的な 9 日間を過ごしました。ハーバードでの 9 日間はとても充実したプログラムでしたが、そのプログラム内容と同程度に、プログラム中や食事の際などに交わされる何気ない会話が、参加者の経験により厚みを持たせたのだと感じています。「ハーバード生と思い切り議論してみたい」、「世界の学生と交流を深め自分を相対化したい」など様々な想いの下に臨んだ 9 日間のカンファレンスでした。各自が感じ取ったものは違えど、全ての参加者にとって「忘れられない」経験になったのではないのでしょうか。今後とも、今回感じ取ったものを各々がきちんと言語化し咀嚼することで、今後の人生においてこの経験を価値のあるものにしていく所存です。

今回、大学一年生という未熟な立場にも関わらずこのような貴重な経験を出来たのは、カンファレンスを主宰してくれたハーバード生、HCAP 東京大学運営委員会 8 期を温かく支援して下さっているアラムナイの方、ご協賛、ご協力頂いている団体・個人様のご厚意のおかげです。この場をお借りし改めて、8 期一同より心からの感謝の念を申し上げます。

来る 3 月には HCAP 東京大学運営委員会の集大成ともいえる「東京カンファレンス」が開催されます。今回の経験を活かしながら、今後とも気を引き締めて、東京カンファレンスの開催準備にあたる所存です。

以上を持ちましてハーバードカンファレンス 2014 の報告を終わります。

HCAP 東京大学運営委員会 8 期 代表 御代田太一

